

県 央

特支90人の絵、工作



高崎 「第65回高崎市小・中・特別支援学校 ゆうあい教育作品展」が2日、高崎市の高崎シテイギャラリーで始まった。絵画や工作、手芸など個性豊かな作品を来場者が楽しんでいる。7日まで。

市内小中学校の特別支援学級と市立高崎特別支援学校に在籍する児童生徒、合わせて約900人の力作約1800点が出品された。写真。校内の風景を描いた絵画や力強い筆遣いの習字など多彩な作品が並ぶ。

児童生徒の学習成果発表や、特別支援教育についての理解促進を図る機会として開いている。

午前10時～午後5時(最終日は同3時半)。問い合わせは高崎榛名中内の事務局(☎0277・374・1455)へ。(高橋和真)

アプリ開発の物理部を応援

高崎 撮影した物を英文と音声で説明するアプリ「イングリッシュレンズ」の開発に取り組み高崎高物理部の4人を応援しようと、糸井商事(高崎市)の糸井丈之社長(写真前右)はサーバパソコン1台(99万円相当)を贈る。アプリ開発や同部の活動で活用してもらう。

社会課題解決を目指す中高生のアイデアと企業のマッチング事業「始動人Jr. インキュベーション2023」で、部員のプレゼンテーションが糸井社長の目に留まり、支援が決まった。

2日、糸井社長が同市の同校を訪れ、小林智宏校長(同左)に目録を手渡した。併せて4人に1台ずつ高性能パソコンも贈った。同校出身の糸井社長は「きっと実現する可能性がある。実際支援を受ける。」(水村希英)



閉園前の思い出に

宮城幼稚園など 東部商工会青年部



前橋 前橋東部商工会青年部(峯岸幸介部長)のメンバーが2日、節分の鬼に扮して大胡、粕川、宮城地区内の幼稚園や保育園計12カ所を回った。前橋宮城幼稚園(間々田博園長)は3月末で閉園するため、今回は最後の豆まき。7人の鬼が現れると泣いてしまつ子もいたが、園児8人は「鬼は外」と声を張り上げながら豆を投げ、鬼に立ち向かった。写真。

金田一凛ちゃん(6)は「最初は怖かったけど、鬼がいなくなるように一生懸命豆をまけた」と話した。(深沢千尋)

園児、勇気出し「鬼は外」

高崎 高崎市群馬商工会青年部(部 岸裕也部長)は2日、鬼の着ぐるみで旧群馬町内の保育園や幼稚園など13園を回り、各園の節分行事を盛り上げた。

地域と交流を図るとともに、子どもたちの思い出づくりにしてほしいと続けている。7人の鬼が3班に分かれて各園を巡った。

ぐんま幼稚園と星の光こども園には赤鬼と青鬼が登場。「怖い」と泣き出す子が続出するほ

迫力満点の鬼 13園に出現

高崎 高崎市群馬商工会青年部(部 岸裕也部長)は2日、鬼の着ぐるみで旧群馬町内の保育園や幼稚園など13園を回り、各園の節分行事を盛り上げた。



ど迫力満点の鬼に対し、園児らは勇気を出して「鬼は外」と声を合わせ、大豆や丸めた新聞紙などを投げて退治に挑んだ。写真。最後は鬼に抱き締めてもらい「仲直り」する姿も見られた。(米原守)

手工芸品、絵画など112点 ぎょうから南地区作品展



伊勢崎 地域住民の生涯学習の成果を紹介する「第26回南地区文化作品展」が3、4の両日、伊勢崎市南公民館で開かれる。手工芸品や絵画、書、俳句など112点を展示する。実行委員会のメンバーが2日、作品を飾り付けて準備した。写真。

心の健康に関するパネル展を同時開催し、有志が尺八や弦楽四重奏をBGMとして披露する。豚汁の試食コーナーも設け、食生活改善推進員が400食分を提供する。

生涯学習推進員連絡協議会南地区の船渡川隆一(会長)は「コロナ禍で4年ぶりの開催なので、みんな頑張つて準備した。多くの人に来てもらいたい」と話している。

午前9時半～午後5時(最終日は同3時)。(小沢宣信)

に準備作業を行い、多彩なジャンルの力作数百点を飾り付けた。

サークルの展示会場には絵手紙や水彩画、和の小物など日々の制作活動の成果が並ぶ。個人出品者の会場では、段ボールや木材を使って地域にある七つの神社を100分の1サイズで再現した精巧な模型などが目を引きそう。写真。

午前9時～午後4時(最終日は同3時)。問い合わせは同公民館(☎0270・25・2356)へ。(村上真代)



ぎょうから宮郷地区作品展 絵手紙、模型 成果を紹介

伊勢崎 伊勢崎市宮郷公民館で活動するサークルや個人の作品を展示する第52回宮郷地区総合作品展(同実行委員会主催)が3、4の両日、同公民館で開かれる。2日

伊勢崎 教育現自動翻

外国人の教育の自動化

賞流鑑交 音楽劇や人形劇

伊勢崎 音楽劇や人形劇の鑑賞

資源が社会づ

前橋 資源が循環する社会